

授業科目名称 : 栄養教育論Ⅰ（実践的教育科目）

授業コード : 14624

授業科目英文名称 : Argument of Nutritional EducationⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
高江洲 有沙（実務経験のある教員）			
展開方法	講義		
ナンバリング	IB250		
添付ファイル			

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	栄養教育の目的や対象者の行動変容に必要な知識や理論を説明できる。	・定期試験 ・小テスト	50% 10%
情報収集、分析力	対象者の情報から課題を明確にし、栄養教育に必要な理論や技法を選択することができる。	・定期試験 ・課題レポート	10% 10%
コミュニケーション力	対象者の自己決定や行動変容を促す支援方法を栄養カウンセリングに基づいて理解し、コミュニケーションの重要性を説明できる。	・定期試験	10%
協働・課題解決力	栄養教育の内容が時代背景に応じて変化することを理解し、現代の健康問題について栄養教育の観点から適切な解決策を提案できる思考力を持つことができる。	・定期試験	10%
多様性理解力			
出席		受験要件	
合計		100%	

授業のねらい	健康の維持・増進、生活習慣病等の発症予防のための栄養教育の定義と目的を理解し、栄養教育を行うための理論を学修する。具体的には、対象者の栄養状態の維持や改善に向けては、栄養教育によって対象者の行動変容を促すことが重要であり、その際に必要な行動科学理論や栄養カウンセリング、栄養教育マネジメントを理解し、栄養教育へ応用できる基礎知識を修得する。		
アクティブラーニングの類型	①②③⑩		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明	・定期試験（80％）は筆記式とし、栄養教育の目的や行動科学理論、カウンセリングの手法、栄養教育マネジメントを理解できているかを評価する。また、予習・復習を行ったうえで授業に臨んでいるか（受講態度）を、毎回の授業開始時に小テスト（10％）で評価し、課題レポート（10％）は第9回に課し、行動科学理論を実際の栄養教育に結び付けて理解できているかを評価する。 ・小テストや課題レポートはポートフォリオ、授業の理解度はレスポンスを活用し、それぞれの授業内でフィードバックをする。		
授業概要	・栄養教育の定義や目的をはじめ、個人および集団を対象とした栄養教育に必要な基礎知識を学修する。基礎知識の主な内容は、食行動の変容を促すために必要な行動科学理論や栄養カウンセリング、栄養教育マネジメントサイクルとする。また、本科目を踏まえ、栄養教育論Ⅱではライフステージ別の具体的な栄養教育を学修する。 ・教員の学校や医療機関での実務経験から具体的な事例を取り入れ、より実践的な理解へ導く。 ・授業は、教科書に準じて行い、必要に応じてプリントやパワーポイント、動画を使用する。 ・この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。		
教科書・参考書・指定図書	教科書：サクセス管理栄養士・栄養士養成講座「栄養教育論」 第一出版 参考書：資料を適宜配布する。 指定図書：サクセス管理栄養士・栄養士養成講座「栄養教育論」 第一出版		
授業外における学修及び学生に期待すること	講義を通じて、自分の生活環境において関連する事項を抽出しながら、栄養教育が身近なものであることを理解し、管理栄養士・栄養士としての使命感、倫理観、職業観などが培われることを期待する。また、授業中の私語、スマートフォン、携帯電話、メールなどは厳禁である。無許可での途中退出は不可とする。		
授業計画	回	テーマ	授業の内容
	1	栄養教育の概念	栄養教育の目的・目標 栄養教育の対象と機会
	2	栄養教育のための理論的基礎 行動科学の理論とモデル①	刺激-反応理論
	3	行動科学の理論とモデル②	ヘルスビリーフモデル トランスセオレティカルモデル

4	行動科学の理論とモデル③	計画的行動理論 社会的認知理論	予) 教科書第1章該当箇所 復) 行動科学理論のポイント
5	行動科学の理論とモデル④	ソーシャルサポート コミュニティオーガニゼーション	予) 教科書第1章該当箇所 復) 行動科学理論のポイント
6	行動科学の理論とモデル⑤	イノベーション普及理論 ヘルスリテラシー	予) 教科書第1章該当箇所 復) 行動科学理論のポイント
7	栄養カウンセリング①	行動カウンセリング カウンセリングの基礎的技法	予) 教科書第1章該当箇所 復) カウンセリングの基本的技法
8	栄養カウンセリング②	認知行動療法 動機づけ面接	予) 教科書第1章該当箇所 復) 認知行動療法、動機づけ面接
9	行動変容技法と概念	刺激統制法、反応妨害・拮抗、行動置換、オペラント強化、認知再構成、意思決定バランス、目標宣言・行動契約、セルフモニタリング、自己効力感、ストレスマネジメント、ソーシャルスキルトレーニング、ナッジ（課題レポート）	予) 教科書第1章該当箇所 復) 行動変容技法
10	組織づくり・地域づくりへの展開	セルフヘルプグループ、グループダイナミクス、エンパワメント、ソーシャルキャピタル	予) 教科書第1章該当箇所 復) 組織・地域づくりへの展開
11	栄養教育マネジメント 栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル	プリシード・プロシードモデル ソーシャルマーケティング 生態学的モデル	予) 教科書第2章該当箇所 復) 栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル
12	健康・食物摂取に影響を及ぼす要因のアセスメント	アセスメントの種類と方法 個人要因のアセスメント 環境要因のアセスメント	予) 教科書第2章該当箇所 復) アセスメントの必要性和種類
13	栄養教育の目標設定	目標設定の方法 実施目標、学習目標、行動目標、環境目標、結果目標	予) 教科書第2章該当箇所 復) 栄養教育の目標設定の意義と目標の種類
14	栄養教育計画立案①	学習者の決定、期間・時期・頻度・時間の設定、場所の選択と設定、実施者の決定とトレーニング、教材の選択と作成	予) 教科書第2章該当箇所 復) 計画立案に必要な項目
15	栄養教育計画立案②	学習形態の選択	予) 教科書第2章該当箇所 復) 学習形態や学習教材
16	定期試験		